



Title	イエズス会東インド管区コレジヨの財源形態について
Author(s)	高橋, 裕史
Citation	基督教学, 37, 25-27
Issue Date	2002-07-04
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/46652">https://hdl.handle.net/2115/46652</a>
Type	journal article
File Information	37_25-27.pdf



研究発表要旨

# イエズス会東インド管区 コレジヨの財源形態について

高橋 裕 史

はじめに

初は、その両方を何とかして共存させ両立させることを目論んでいた。神話という概念によって、本来統一的なものであるべき聖書が神学者と歴史学者との間で引き裂かれることになったというフライの認識は、おそらく誤ってはいないだろう。しかし聖書を再び物語として読むべきだというフライの主張においては、信仰と学問と対置された場合の学問をどう扱うかという問題がないがしろにされているという印象がある。私たちは、シユトラウスが直面した葛藤と神話という概念のもとで企てた試みを再度顧みる必要があるのではないだろうか。

イエズス会は海外布教を推進し、教勢の拡大を図ったが、エチオピアから日本に至る東インド管区は、同会「最大の管区」であった。イエズス会は各種の布教機関を有しているが、コレジヨ Collegio は「神への奉仕に身を捧げる者を排出する場」として規定された、最重要布教機関であった。そのためコレジヨは、その重要性から、例外として私有財産の所有が公認されていた。ここでは、イエズス会東インド管区に置かれたゴア、サルセツテ、バサイン、コチン、マラッカの各コレジヨの財源形態を分析し、イエズス会の経済構造の一端を紹介したく思う。

## 一 コレジヨの定収入

右の五つのコレジヨが有していた定収入は、ポルトガル国王からの各種給付金（年金・関税など）、不動産（土地・家賃・村落など）、篤志家からの土地を主体とした寄付、他宗教教団旧有の土地から構成されていた。定収入の総額では、ゴア・コレジヨが群を抜き、コチン、バサイン、サルセツテ、マラッカの各コレジヨと続く。バサインのコレジヨは、所有する土地を現地の農民に賃貸するなど、一種の所領経営を行なっていた。

## 二 コレジヨ定収入の用途

これらの定収入はイエズス会関係者の生活費、コレジヨ付属施設の運営費（原住民児童の学校や病院等）、慈善事業の運営費、教会の調度品その他、葡萄酒、オリーブ油の購入などに充当されていた。変わった支出先として、奴隷への賃金、軍資金などがある。

## 三 コレジヨの負債

一で見たようにコレジヨは様々な定収入を有していた

のだが、それらの定収入だけではコレジヨの運営が賄いきれずに財政状況が逼迫し、結果として「負債」を抱えることとなった。ゴア・コレジヨは総収入額の約三倍、コチン・コレジヨは総収入額の約三割強、マラッカ・コレジヨは総収入額の二倍強の負債を有し、名目上の収入額とは異なり、いずれのコレジヨも財政状況は芳しくなかった。またこの負債はコレジヨの規模に準じて大きくなり、コレジヨ機能の拡大と共に負債も高むという、皮肉な現実を反映するものであった。

## 四 定収入の管理

各コレジヨの定収入は、当該コレジヨの院長が管理・運営することが原則であった。しかし、他のコレジヨの定収入を管理するコレジヨもあり、またコレジヨ所在地以外の土地にある定収入は、その地のイエズス会員が管理していた。また財務会計担当司祭である「プロクラドール」procuradorも定収入の管理に携わり、コレジヨ院長の配下にあつて、コレジヨの会計帳簿の作成などに従事していた。

おわりに

以上、イエズス会コレジヨの財源形態の概要を記してきたが、それが有する意義として、次の二点を指摘したい。

第一に、この種の研究を蓄積することで、中世修道会の経済活動に関する研究に加えて、近代修道会の経済活動についての研究領域が開拓され得ることである。

第二に、「経済」を紐帯として、国家と宗教とが不可分に結び付いていたことである。これは、各コレジヨの定収入の一部分を、ポルトガル国王給付金が構成していたことから判明する。しかしコレジヨの財源としてポルトガルの国庫が充当されていたことは、イエズス会の「修道会」としての在り方を規制し、イエズス会士たちは「修道会士」であると同時に、ポルトガル国王の「臣下」としても活動せざるを得なくなった。「この敵対者を征服するならば、国王陛下はかのマラッカ全域の絶対的支配者となられよう」という、イエズス会東インド巡察師ヴァリニャーノの言葉は、それを雄弁に物語っている。

#### 研究発表要旨

## 共観福音書における

## 身障と疾病

新 谷 光 二

共観福音書のマタイは1〜28章、マルコは1〜16章、ルカは1〜24章より成り立っている。しかし、生誕や十字架、復活、昇天の記載を除けば、イエス・キリストの福音宣教活動は、マタイでは4章から25章まで、マルコでは1章から13章まで、ルカでは4章から21章までとなる。これらの章節には後述の一部の箇所を除き、身障と疾病に関する記述は至る所に表われ、これらが人生の最大関心事であったことを物語っている。

この発表では、共観福音書における身障と疾病に関する記述の実態を明らかにし、そこから今日の課題を得ようとするものである。身障と疾病の記述の表れない章節はイエスの生誕、十字架等の章節の他に、山上の説教で